

## 5 - 1 東海地方の微小地震の分布 (1985年11月1日～1986年4月30日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District  
(November 1, 1985 - April 30, 1986)

名古屋大学 理学部

School of Science, Nagoya University

前報1) に引き続いて1985年11月1日より1986年4月30日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

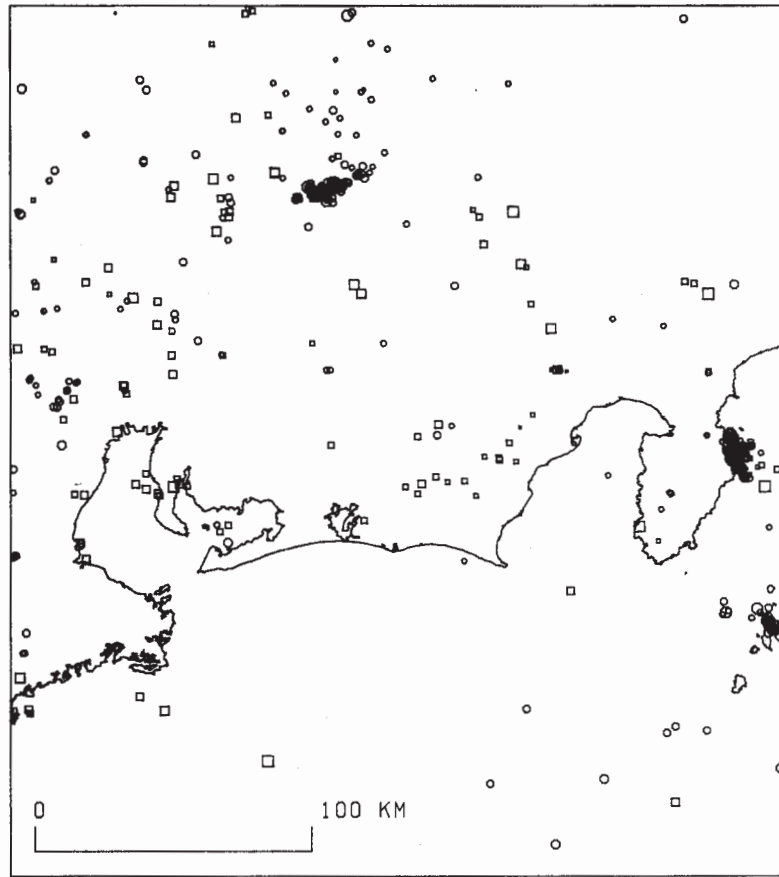
第1図に1985年11月1日より1986年4月30日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20 km以浅に発生している地震の震央を3ヶ月づつの期間に分けて示す。第2図は同じ期間に20 kmから80 kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 長野県西部地震の余震は時間とともに活動が低下しているが、M 3.0以上の余震も数個／月発生している等依然として余震活動が見られる。1月になってから余震域の南側の本震以前の群発地震の震央域にも地震の発生が見られるようになってきている。
- (2) 伊豆半島東方沖では1985年8月から1985年12月にかけて主に沖の海底下でM 3.2の地震を含む地震活動が見られた他、12月20日に駿河湾内にM 3.9を含む地震活動があった。
- (3) 1986年3月7日に乗鞍岳の南東7～8 kmの地域にM 4.9の地震を含む小規模な群発地震活動が認められた(文献2, 参照)。
- (4) 1986年3月17日と18日に天竜川中流の静岡県春野付近にそれぞれM 3.1, M 3.8の地震を含む浅発地震活動があり、4月21日から24日にかけてM 3以上の地震3個を含む地震活動があった。この地域は1978年末から1982年末まで時々微小地震の活動がみられたが1983年以降、地震の発生の見られなかった地域である。

### 参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布 (1985年5月1日～1985年10月31日), 連絡会報, **35** (1986), 261 - 263
- 2) 名古屋大学理学部：飛騨地方南部の地震活動 (1985年11月～1986年4月), 連絡会報, **36**, (1986).

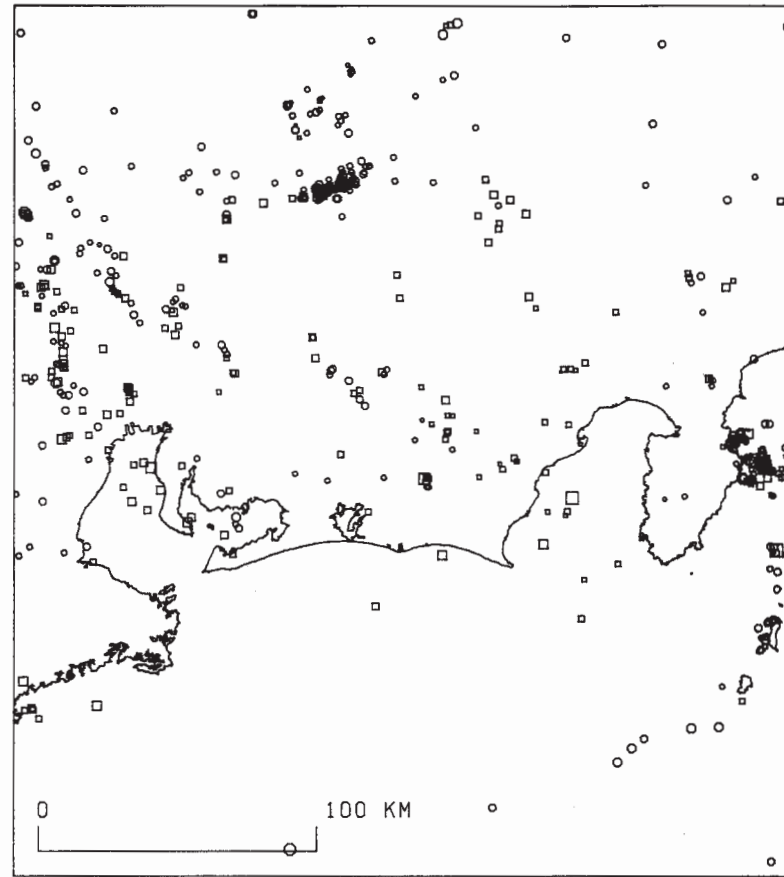


N = 698

DEPTH 0 10 20 KM  
○ □

MAG. 1 2 3 4  
• ○ ○ ○

1985 8 1 - 1985 10 31



N = 588

DEPTH 0 10 20 KM  
○ □

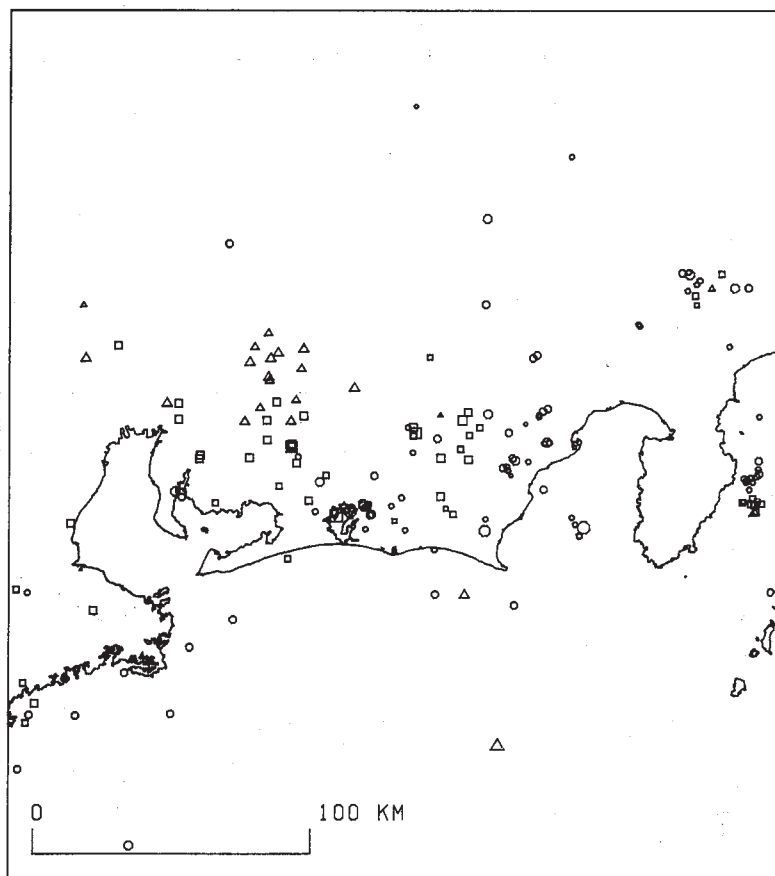
MAG. 1 2 3 4  
• ○ ○ ○

1985 11 1 - 1986 1 31

( NAGØYA UNIV )

第1図 微小地震の分布 (1985年11月1日~1986年4月30日) 震源の深さが20 km以浅のもの

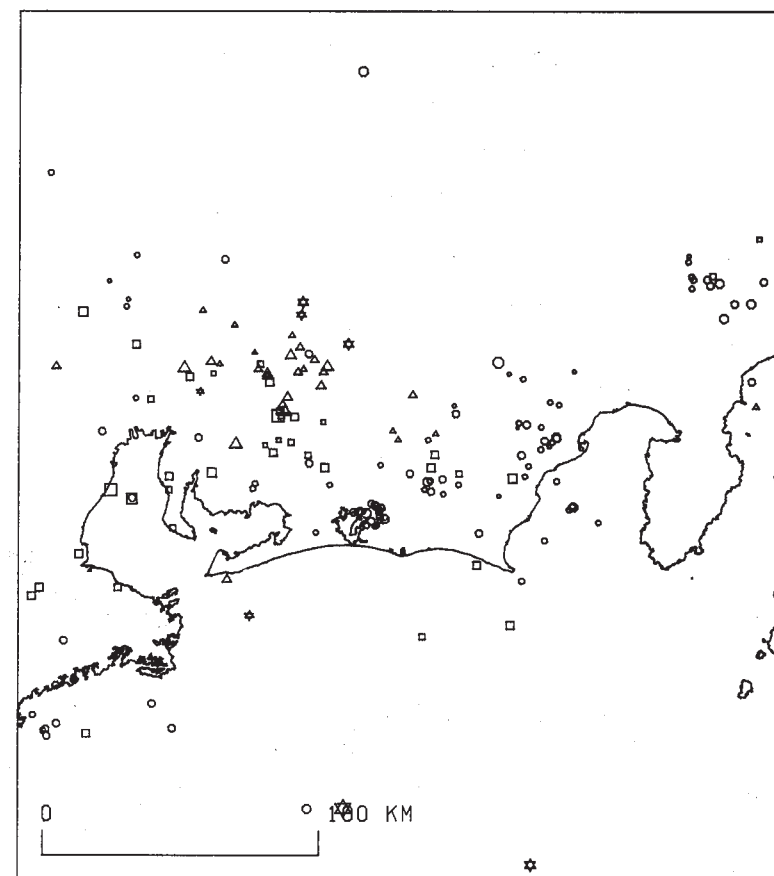
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (November 1, 1985 - April 30, 1986) shallower than 20 km.



N = 171

DEPTH 20 30 40 50 80 KM  
 ○ □ △ ☆

1985 8 1 - 1985 10 31



N = 176

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4  
 ○ □ △ ☆ ○ ○ ○ ○

1985 11 1 - 1986 1 31

( NAGØYA UNIV )

第2図 微小地震の分布 (1985年11月1日~1986年4月30日) 震源の深さが20 kmより深いもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (November 1, 1985 - April 30, 1986) deeper than 20 km.